

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500016		
法人名	有限会社 白ゆり		
事業所名	グループホーム 白ゆり		
所在地	大分県佐伯市上岡1265番地2		
自己評価作成日	平成23年2月26日	評価結果市町村受理日	平成23年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	厚生労働省のサーバーへ移行中につき、現在公表されておりません
----------	--------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分県大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成23年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者と職員の関わり、関係が理念のように明るく元気に楽しく出来ています。
- ・職員の離職が無いので、顔なじみであり、利用者さんを不安にさせることなく継続した援助が出来ています。
- ・施設周囲の環境が四季おりおりの変化(花・鳥など)に恵まれています。
- ・季節感あふれるおいしい手料理を提供しています。
- ・協力医療機関との連携による終末期の看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市郊外の国道沿いに位置する1ユニットの施設で、窓からは畑や緑が見える長閑な環境にあります。周辺は商業地域で、敷地内には、協力医としての医療機関を有しています。居間の一角にあるオープンキッチンと、ソファの配置は、利用者の生活に温かさや家庭的な雰囲気を楽しめる空間を演出しており、また憩いの場として活用されています。高齢者にとって生活の全般がリハビリに通じる体力保持の活動である事を職員は意識する中で、負担を与えない言葉かけに留意しながら、馴染みの曲での体操を生活に取り入れる等の工夫も行なわれています。地域の中で生活する施設(家庭)の一人としての趣きを大切にしながら、利用者が施設の中で生涯の生活を有意義に営むための支援と、家族の同意のもとに、その延長にある介護「看取り」にも積極的に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を共有し、利用者さんと共に楽しく仕事をしています。	地域の中の施設(家庭)であることを職員が把握する中で、その人らしく日々の生活が送れるように、一人ひとりの暮らしぶりを大切にしながら理念に即した支援に取り組んでいます。「明るく元気な職員」の姿をもとに関係づくりに努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に野菜をいただいたり、苑での行事等にも積極的に参加の声かけを行い、交流を深めています。	地域の高校生(果物等の販売)と交流・ボランティア(歌・踊り等)のお披露目会など、外来者の受入れ体制も整っています。散歩途中の地域住民とお茶会や野菜のおすそわけなどの、日常的な関係づくりも行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長、民生委員の方には運営推進会議で、地域の方には普段から認知症についての情報発信を行い、理解を得られるようにしている。前の畑の果物など利用者がとても理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3カ月に1回開催し行事や利用状況の報告、苑に対する意見、行事参加での感想を伺いサービス向上にいかしています。また議題を提供し共に検討しています。	その時々に応じた議題が提示される中で、話し合いが行なわれています。委員の中からも、環境設定(四季の趣)への提案や実践が行なわれるなど、ホームへの積極的な支援の姿勢への取り組みが伺えました。	今後の更なる支援の向上に向け、議題や会議の内容について、検討を重ねたい意向が伺えました。これからの取り組みに、より一層の期待が持たれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者・地域包括センター職員を訪問、電話して問題点など相談している。	市担当者の訪問・電話相談による連絡の発信など行政に対して、相互の協力的な関係づくりに努める様子が伺えます。	管理者は、地域で暮らす利用者の生活の向上に向け、施設の役割りを把握しており、支援に努めています。また、行政との相互関係の必要性も踏まえており、今後の取り組みに、更なる期待が持たれます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い職員間で勉強、意見交換を行い、身体拘束のないケアの実践に向けて取り組んでいます。日中はなるべく施錠しないよう努めています。	一人ひとりの利用者の思いの尊重と、安全面への対応と対策等について、勉強会において研鑽に努めています。見守りの徹底に取り組みながら日常生活から伺える状態の変化や気づきを職員間で共有しており、実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を予定しており、普段から利用者さん同士の日常会話や動作を注意深く観察して未然に防いでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ないことのみ手伝い、自分で出来ることを大切にして自立支援を援助している。成年後見制度について勉強会を行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や本人の不安や疑問が解決出来るように、十分説明をし、同意を得て契約書を交わしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、第三者機関、運営推進会議、家族会の活用。また面会の時に家族からの言葉を真摯に受け止め統一した介護、運営に反映しています。遠慮せずに表出できる関係づくりを行っています。	年間2・3回の家族会が行なわれています。行事とタイアップする中で半数ほどの参加があり、利用者間での交流等も図られる中で、一人ひとりの思いの把握にも努めており、その支援の実践(外出支援・希望等)に向け全職員で取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝礼など職員からの意見が気軽に言える雰囲気づくりをし、運営に反映しています。	職員会議は、個々の職員の意見交換の場となり、その内容が介護に反映できる体制が育まれています。日常の職務においても、全職員間での分担と共有の仕組みのバランスが図られる中で、チームワークにもとづいた支援に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用条件の改善、賞与の受給、食事会の開催などを行い、また業務に対し認め、誉めるように努めておりやりがいを持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として研修への参加を確保しています。また研修報告を職員全員把握、質の向上に努めています。勉強会も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加やGH連絡会等で他施設と連絡する機会を設け、交流する機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みがあった際は、本人家族と面談し、ADL状態や価値観、入所に対する気持ち等確認するようにしています。可能であれば事前に見学していただけるよう努めています。また体験入居利用もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る家族の想いを受け入れると共に、サービス利用状況や要望、疑問などに耳を傾けています。金銭面を含めた利用料の相談も行っています。繰り返し相談援助を行い、信頼関係を築くように努めています。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用するにあたり事前アセスメントを行い、心身状態や生活歴、家族状況などを把握してまず必要としている支援を行うようにしています。その結果、必要な他サービス利用の援助も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に役割をしたり、自分で出来ることは自分で行っています。また職員から先輩として教えを請うたり相談に乗ってもらうこともあります。日々の暮らしを共にする関係性を築くように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事、レクリエーション等に出来るだけ参加してもらったり面会の際に日々の出来事や様子を報告して本人の情報を共有して共に本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望に添ってお盆や正月などの帰省、馴染みの美容院利用援助など支援している。	利用者の馴染みのお付き合いの把握に努める中で、一人ひとりの利用者とその家族の思いを大切に受け取りながら、繋がりを継続できる支援(電話・ハガキ・訪問)に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し、思いや尊厳を大切に、楽しく過ごせるように支援しています。リビングでの席は、相性など考慮し場に入り易いような雰囲気づくりと声かけを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所された利用者の家族から野菜の差し入れをいただくなどの関係を維持しています。なおお亡くなりになられた方のお通夜や葬式に参加をして残されたご家族の心の支えになれるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と触れ合う中で、時折の気づきや想いを見逃さないようにし、一人ひとりの希望や意向の把握に努めています。その人にとって最良の暮らしは何か、常に意識を持って関わっています。	家庭的な雰囲気を大切にする中で、一人ひとりの思いへの気づきの把握に向け全職員で取り組んでいます。職員間で情報の共有と検討が図られており、利用者の思いの実践に努めている様子が伺えます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居後家族や知人の面会時に話を伺い把握に努めています。可能な範囲で本人からも話を聞いています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康チェックや本人との関りのなかで出来ること出来ないこと、心身状態、生活リズムの把握に努めています。また変化に柔軟に対応しています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常日頃から職員、家族、本人からの意見を取り入れ介護計画を作成している。援助内容について毎月モニタリングを行い見直しをしています。カンファレンスでの職員の意見も反映しています。	毎月の職員会議で、一人ひとりの利用者の現状を全職員が共有の情報として把握する中で、その人らしさを活かせる計画の策定に努めると共に、見直しが進められています。家族の意向も把握されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画の援助内容に添ってケアを行い、様子や気付いたことを記入しています。介護記録、連絡ノート、ヒヤリハット等で職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、往診(主治医・歯科)買物援助など個々の本人家族のニーズに柔軟に対応しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大正琴などの地域ボランティアや区長、民生委員の方を行事に招待して、利用者さんと共に歌や踊りを楽しんでもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際はご家族、本人の希望を大切に適切な医療が受けられるように支援しています。なお苑の敷地内に協力医療機関があり常日頃から連絡相談を行っています。	敷地内に協力医療機関があり健康診断に関わらず、体調不良時・利用者の希望時など素早い対応が出来ており、職員・家族・医療機関と情報の共有が図られています。受診結果については、その日のうちに家族の方に報告を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で気付いた情報を看護職員に報告、相談をし(準看護師配置)適切な受診や看護を受けられるように支援しています。不在時は協力医療機関の看護師による必要に応じた協力を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近入院した利用者はいませんが、病院の相談員と密に電話や訪問を行い入院に備えての情報収集や関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には支援方法や終末期に対するアンケートや話し合いを行っており、重度化した際は主治医を含め家族と話し合いをし、事業所として出来ること、出来ないことを説明し協力医療機関も含め支援に取り組んでいます。	早期から重度化・終末期に関する話し合いの機会を作り、本人・家族の意向や支援内容の共有が図られています。また、推進会議を活用しターミナルケアの話し合いが行われており、地域で支えるチームケアの役割を発揮出来る事業所となっています。家族の方の看取りの部屋も用意され安心して終末期を迎えられる支援が出来ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議や勉強会を通じてマニュアルに添った適切な対応が出来るように実践力を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導の下に避難訓練を行っています。災害時のマニュアルを作成しており、敷地内の協力医療機関に避難場所の確保を依頼しています。	年2回の避難訓練を実施するとともに、推進会議の中で地域住民の協力の呼びかけを行っています。台風・地震に対する災害マニュアルを作成し、確認しやすい位置に掲示しています。	地域との連携を築く為に、地域を守る消防団への呼びかけに期待します。災害時に地域の方の避難場所となるなど、施設と地域の相互の協力体制づくりに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルをもとに人格を尊重し、利用者一人ひとりに対する声かけや対応が誇りやプライバシーを損ねないよう、十分気をつけて対応しています。	研修会を定期的に行い、思いを伝える大切さを把握し職員会議等で共有が図られています。トイレ誘導なども、他の人に気づかれないように自然でさりげない声かけが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りの中で、一人ひとりの想いを尊重し、自由に表出、自己決定出来るような雰囲気、関係づくりを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や考え等、本人と話し合いながら想いを把握、尊重し利用者が望む生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際には、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。また、利用者の希望に添って馴染みの美容室などに行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同スペースにリビングがあり、料理の香りなど五感に食事の楽しみを感じることが出来ています。朝の「いただきます」の挨拶や下膳などしてもらっています。	献立表はあるものの利用者の希望やその時の旬な食材により柔軟な対応が出来ています。食材をしっかり見てもらう事や、調理時の音・香りを大切に食欲増進に繋げ、食べる事からの健康づくりに力を入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表をもとに個人のその日の体調に合わせて柔軟に対応している。栄養士の資格がある職員がおりアドバイスをもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが必要な利用者には義歯の手入れや歯磨きの手伝いをしています。また自分で出来る方も確認しています。週1回ポリデント洗浄をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の身体状況を把握し、可能な範囲でおむつの使用が減るようにトイレ誘導や声かけをしています。排泄パターンを出来るだけ把握して声かけを行うことで失敗が減るように支援しています。	居室内にトイレが設置しており、本人のリズムに合わせ自立に向けた支援が行われています。一人ひとりの排泄パターンや利用者の仕草を職員間で共有しており、トイレサインを大切に誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の健康チェックで排便の有無の確認を行い、水分補給・体操・運動・繊維質の多い献立づくりなど取り組んでいます。また必要に応じて緩下剤を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴は週3回(月・水・金)に行っていますが、利用者の体調や希望に合わせて日時を変更したり、友人とおして入浴したり、入浴剤を使用して楽しんでもらっています。	職員二人対応の支援が行われており、安心・安全の中で一人ひとりの入浴方法にあった支援を心がけています。入浴後の感想を大切に、職員間で共有されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるように静かな環境で体調に合わせて湯たんぽやアイスノンを使用したり、空調を快適に調整しています。また日中は可能な限り離床座位保持に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬を毎日確認し、飲み忘れや誤薬がないように努めています。お薬手帳により用法や用量の確認をし、変更があった際は、連絡ノートや個人記録に記入し情報の共有を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かしたラオケや洗濯物たたみなど職員と共に行っています。トイレや廊下など掃除をして下さる方もいます。また外出や買い物などで気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や希望に添ってドライブ、買い物などの支援をしています。ご家族との外出を楽しみにしている方もおり、年に1～2回利用者、職員、家族で外出する機会を作っており、普段の様子も含めご家族にお便りを届けています。	季節の花見や外食・ドライブとは別に、一人ひとりの体調や希望に添って買い物・銀行・美容院等への外出支援を行っています。また、日常的に施設周辺を散歩したり外気にふれ気分転換や健康保持が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布(小額)を持っている利用者や事業所預かりの利用者の方も外出時など自分の意思で買い物をして、自分で支払うように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により事業所内の電話をかけたリ、取り次いだりしています。はがきの購入援助など行い、手紙を出すこともしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく広々としており、日向ぼっこなどして居心地良く過ごさせています。四季おりおり花を飾ったり、窓からも四季の変化を感じとれます。	リビングから見える中庭には四季折々の草花が咲き、身近に自然に触れ季節感を感じることが出来ます。壁面には利用者が作成した季節の作品が展示され、みんなで楽しめる雰囲気づくりに取り組んでいます。また、外部からの意見を積極的に取り入れ共有空間づくりに力を入れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファやベンチ、談話室などで一人でゆったりと過ごしたり、気の合う仲間と楽しく過ごせるように工夫しています。また事務室で職員と共に穏やかに過ごされる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、静かで本人が慣れ親しんだ家具や仏壇などご家族と相談しながら使っていただいています。ぬいぐるみやタオルなど本人の嗜好により居室を本人らしく飾っています。	居室には、マッサージチェアや冷蔵庫・テーブルなど利用者や家族の思いが随所に見られ、実家にいるような雰囲気の中で安心してゆっくりと過ごすことが出来る環境づくりが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、本人に合ったベッドの配置と高さの調整、能力による座席の検討など柔軟に対応し工夫しています。		